

第2回 魚津市立西部中学校 学校運営協議会 記録

日時：令和7年2月6日(木) 14:00～15:20

会場：魚津市立西部中学校会議室

1 校長あいさつ

2 学校視察

3 議題

(1) 令和6年度学校評価アンケートについて

【質疑・意見交換】

- ・ 保護者として、チーム担任制はよい取り組みだと思う。評価について、学校で過ごす大人たち（先生・生徒）でよい結果が出ている。いろいろな大人とふれあう場があるので、生徒にとってもよいと思う。
- ・ 子どもの評価、親の評価を真摯に受け止めていくべきである。
- ・ 部活動の縮小について、来年さらに地域移行の競技が増える。近隣の市町村と比べると、魚津市は順調にできている。
- ・ 荒れている学校は清掃がおろそか。清掃に力を入れてほしい。
- ・ チーム担任制は、先生の病休や育児休業等の代員未配置にも柔軟に対応できる。まず、先生が健康であること、そして先生の心理的不安を軽減していくことが大切である。教員は、なり手不足であり、教員採用試験の倍率は2倍を下回っている。柔軟な働き方に対応し、アナウンスの仕方を含めて今後考えていく。
- ・ チーム担任制のメリットを生徒たちに伝え、デメリットを解消してほしい。
- ・ 自転車のノーヘルの生徒がいる。指摘すると直るので、素直で良いと思う。保護者アンケートより、PTAの存続が難しいのではないか。PTAがPにもっと学校の取り組みを伝えるべきである。
- ・ PTA発足時と今とでは、活動が様変わりしている。保護者の考え方が変化している。PTAの役割は、普遍的なものもあるかもしれないが、今の子どもたちに合わせたあり方をしていくべき。

(2) 令和7年度学校運営方針について

- ・ 若年層の「闇バイト」への加担やSNSトラブルの増加、いじめの認知件数や重大事態の発生件数が過去最多という現状がある。欺瞞や暴力、誹謗中傷等、力の悪用から派生する悪事や悪行が横行する世の中では、皆幸せに暮らせない。「己の心身の力を、誰もが幸せに暮らせる社会をつくるために（個々のウェルビーイングの向上のために）、最も有効に活用する」という「精力善用」の教えに基づく教育活動の展開が必要である。昨年度の生徒会スローガンである「自他共栄」の精神も内在一体と位置付け、互いに尊重し合いながら誰もが幸せに暮らせる社会の形成者、平和で民主的な国家の形成者としての素地・基礎を培いたい。
- ・ 地区でも、幸福度の高い地域をつくりたいと思っている。互いが互いを支えられるような社会を目指していきたい。
- ・ 地域教材を生かして学校にはたらきかけたい。問題解決能力を育てほしい。
- ・ チーム担任、部活動地域移行共に、施行し始めてまだ1年経っていないが、まだまだ可能性を感じる。地域の意見を聞き、より可能性を拡げていきたい。

(3) その他

- ・ 次年度の学校活動について、地域の協力を得て盛り上げていきたい。
- ・ 子どものころに、地域の魅力に気づかせたい。ふるさと教育をより活性化していきたい。東京大学のフィールドスタディ型政策協働プログラムも参考になる。松倉山で合戦ごっこをさせる、魚津城の歴史を伝える等。
- ・ コミュニティーセンターと子どもたちの関わりをもちたいが、中学生は忙しく、地域の行事になかなか参加できない現状がある。

4 閉会